

中小企業動向調査

この調査は富山県内企業460社を対象に実施し、321社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成27年10月～12月の実績、平成28年1月～3月の見込み、平成28年4月～6月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成27年12月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	192	129	67.2%
非 製 造 業	268	192	71.6%
計	460	321	69.8%

日銀が2月12日に公表した、北陸の金融経済月報（2016年2月）によると、「北陸の景気は、回復を続けている。

最終需要をみると、個人消費や住宅投資が持ち直しているほか、設備投資は着実に増加している。一方、公共投資は減少傾向にある。

当地製造業の生産は高水準で推移している。業種別にみると、電子部品・デバイスはやや増加している。化学は高水準で推移している。繊維は横ばい圏内の動きとなっている。金属製品は下げ止まっている。はん用・生産用・業務用機械は弱含んでいる。

雇用・所得環境は着実に改善している。

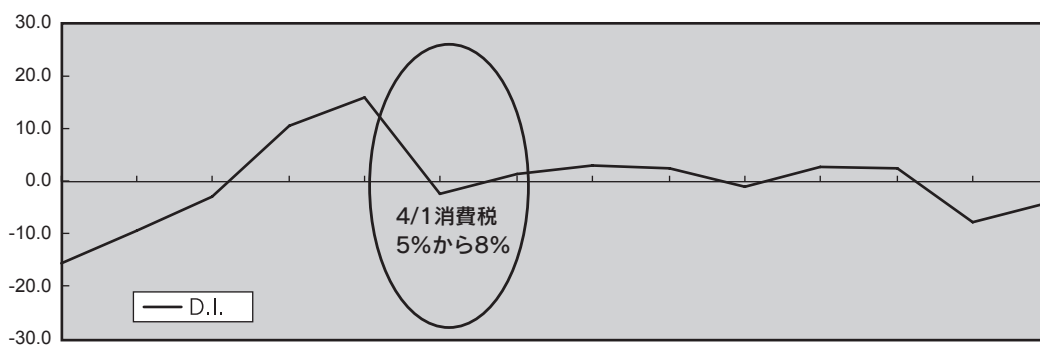
物価は前年比0%程度となっている。」としている。

I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

(%) 見込 予測

期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良 い	10.4	14.2	13.7	24.3	26.7	15.5	17.5	17.0	19.4	16.2	14.3	16.5	10.4	9.8
普 通	63.7	62.2	69.6	62.0	62.6	66.5	66.1	68.9	63.5	66.5	74.0	69.5	71.3	76.3
悪 い	25.9	23.6	16.7	13.8	10.7	17.9	16.3	14.1	17.1	17.3	11.7	14.0	18.3	13.9
D . I .	-15.5	-9.4	-3.1	10.5	16.0	-2.4	1.2	2.9	2.3	-1.1	2.6	2.5	-7.9	-4.1

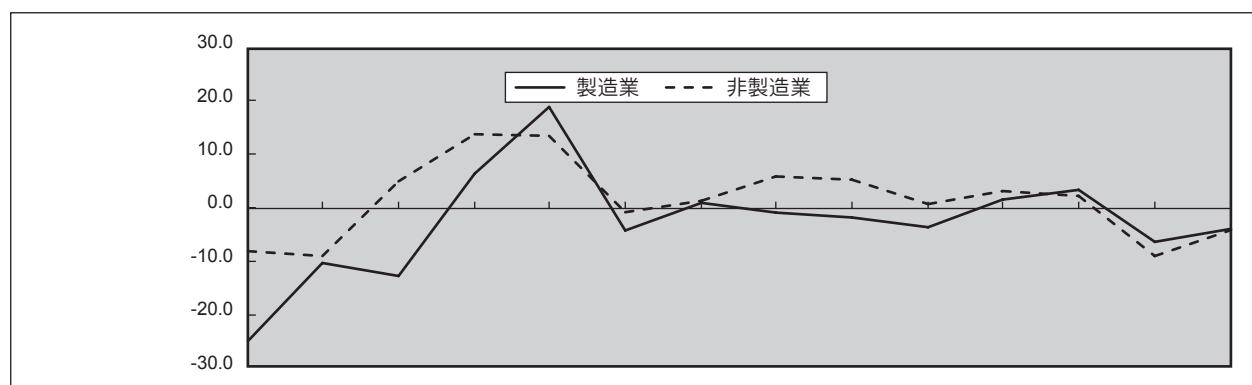


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

期別 種別		25 年				26 年				27 年				28年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良	い	6.2	16.8	10.5	21.6	28.9	17.6	19.4	15.3	18.8	16.5	14.6	18.3	15.7	11.8
普	通	62.8	56.0	66.2	63.2	61.2	60.5	62.0	68.5	60.7	63.3	72.4	66.7	62.2	72.4
悪	い	31.0	27.2	23.3	15.2	9.9	21.8	18.5	16.2	20.5	20.2	13.0	15.1	22.0	15.7
D . I .		-24.8	-10.4	-12.8	6.4	19.0	-4.2	0.9	-0.9	-1.8	-3.7	1.6	3.2	-6.3	-3.9

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

期別 種別		25 年				26 年				27 年				28年	
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
良	い	13.7	12.0	16.3	26.5	24.8	13.6	16.1	18.2	19.9	16.0	14.1	15.3	6.8	8.4
普	通	64.4	67.3	72.5	60.9	63.8	72.0	69.1	69.2	65.6	68.7	75.1	71.4	77.4	78.9
悪	い	21.9	20.7	11.3	12.6	11.3	14.4	14.8	12.6	14.6	15.3	10.8	13.2	15.8	12.6
D . I .		-8.2	-8.7	5.0	13.9	13.5	-0.8	1.3	5.7	5.3	0.6	3.2	2.1	-8.9	-4.2



(1) 富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」の27年10～12月期実績は2.5と前期比0.1ポイントの悪化と大きな変化が見られなかった。

先行きについて、28年1～3月期のD.I.は▲7.9と悪化、28年4～6月期のD.I.は▲4.1とこれも、マイナス予想となっている。

前回調査でも、年明けは悪化予想であったが、今回も同様の予想回答であった。

(2) 業況判断指数D.I.の27年10～12月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より1.6ポイント改善、非製造業は前期より1.1ポイント悪化となった。

先行き予想では、今回改善した製造業もマイナスポイントの悪化予想となっている。

非製造業は、今回から悪化となり先行きも悪化予想となっている。

II. 売上高状況

売上高状況

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加	22.3	30.6	32.3	43.1	53.0	29.9	31.4	30.0	28.3	28.2	28.0	27.3	17.7	18.3
横ばい	45.2	42.1	45.9	39.9	33.2	43.4	43.3	43.1	41.5	45.1	47.7	45.1	57.4	62.5
減少	32.6	27.4	21.7	17.5	13.8	26.7	25.3	27.0	30.2	26.8	24.2	27.6	25.0	19.2
D. I.	-10.3	3.2	10.5	28.6	39.3	3.2	6.1	2.9	-1.9	1.5	3.9	-0.3	-7.3	-0.9

売上高状況 (うち製造業のみ)

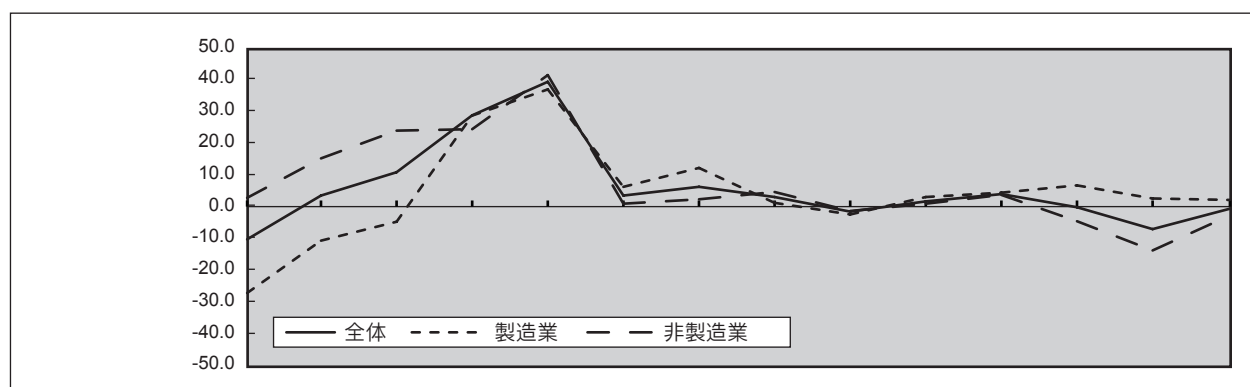
(%) 見込 予測

種別 \ 期別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加	12.3	22.8	25.3	46.0	53.3	32.2	35.2	29.2	31.3	31.5	30.1	30.0	24.8	20.2
横ばい	48.2	43.3	44.0	36.5	30.3	41.5	41.7	42.5	34.8	39.6	43.9	44.2	52.7	61.2
減少	39.5	33.8	30.6	17.5	16.4	26.3	23.1	28.3	34.0	28.8	26.1	24.9	22.5	18.7
D. I.	-27.2	-11.0	-5.2	28.6	36.9	5.9	12.0	0.9	-2.7	2.7	4.1	6.2	2.3	1.6

売上高状況 (うち非製造業のみ)

(%) 見込 予測

種別 \ 期別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
増加	30.0	37.1	38.2	40.8	52.9	27.8	28.7	30.5	26.2	26.0	26.7	24.7	12.8	17.0
横ばい	42.9	41.1	47.5	42.8	35.7	45.1	44.4	43.5	46.4	48.8	50.3	45.8	60.6	63.3
減少	27.2	21.8	14.4	16.4	11.4	27.1	26.8	26.1	27.4	25.3	23.0	29.5	16.6	19.7
D. I.	2.7	15.2	23.8	24.3	41.4	0.8	2.0	4.3	-1.3	0.6	3.7	-4.7	-13.8	-2.7



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査の10～12月のD.I.は、前期より4.2ポイント悪化の回答となった。売上高状況D.I.は前期まで改善してきていたが、今期より悪化となっている。先行きについても、28年1～3月は今期比さらに悪化予想となっている。
- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業に分けると、今期は製造業は前期比改善となっているが非製造業は悪化となった。先行きについては、製造業非製造業とも、悪化予想となっている。

Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

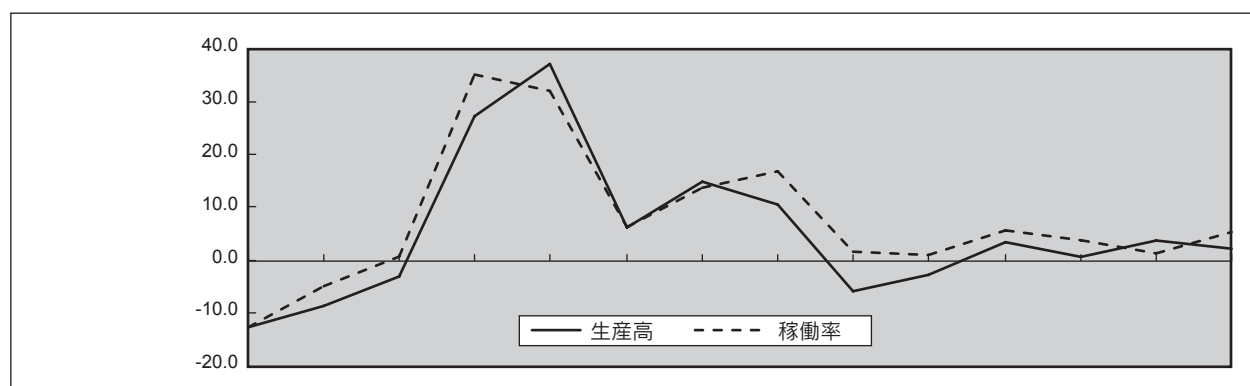
(%) 見込 予測

期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
20%以上増加	0.9	5.5	3.9	7.4	13.6	3.5	5.7	1.8	4.2	5.7	3.2	2.2	2.2	1.5
20%未満増加	19.6	17.2	19.5	33.1	38.1	27.8	27.9	29.2	24.6	21.9	24.8	26.1	21.3	16.9
横ばい状況	46.4	46.1	50.0	46.3	33.9	43.5	47.5	48.7	36.4	41.9	17.2	44.2	56.6	65.4
20%未満減少	24.1	21.9	24.2	11.6	13.6	23.5	17.2	17.7	28.0	27.6	21.6	25.4	17.8	13.2
20%以上減少	8.9	9.4	2.3	1.7	0.8	1.7	1.6	2.7	6.8	2.8	3.2	2.2	2.2	2.9
D . I .	-12.5	-8.6	-3.1	27.3	37.3	6.1	14.8	10.6	-5.9	-2.9	3.2	0.7	3.7	2.2

稼働率（製造業のみ）

(%) 見込 予測

期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
上 昇	0.9	4.7	4.0	8.6	12.9	3.6	5.1	3.8	3.6	5.1	2.5	3.0	2.3	1.5
やや上昇	17.9	16.5	20.0	33.6	33.6	25.0	26.5	29.2	25.2	21.2	24.6	22.7	17.4	18.0
横ばい	50.0	52.8	52.8	50.9	38.8	49.1	50.4	50.9	44.1	48.5	51.6	52.3	62.1	66.2
やや下降	23.2	15.7	20.0	5.2	14.7	20.5	17.1	13.2	21.6	24.2	18.0	20.5	15.2	11.3
下 降	8.0	10.2	3.2	1.7	0.0	1.8	0.9	2.8	5.4	1.0	3.3	1.5	3.0	3.0
D . I .	-12.5	-4.7	0.8	35.3	31.9	6.3	13.7	17.0	1.8	1.0	5.7	3.8	1.5	5.3



(1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.は0.7となり、前期比2.5ポイント悪化した。

売上高同様に、生産高も悪化したとの回答となっている。しかし、先行きの28年1～3月期には、改善予想となっている。

(2) 稼働率についても、今回調査では、前期より1.9ポイント悪化の回答であった。

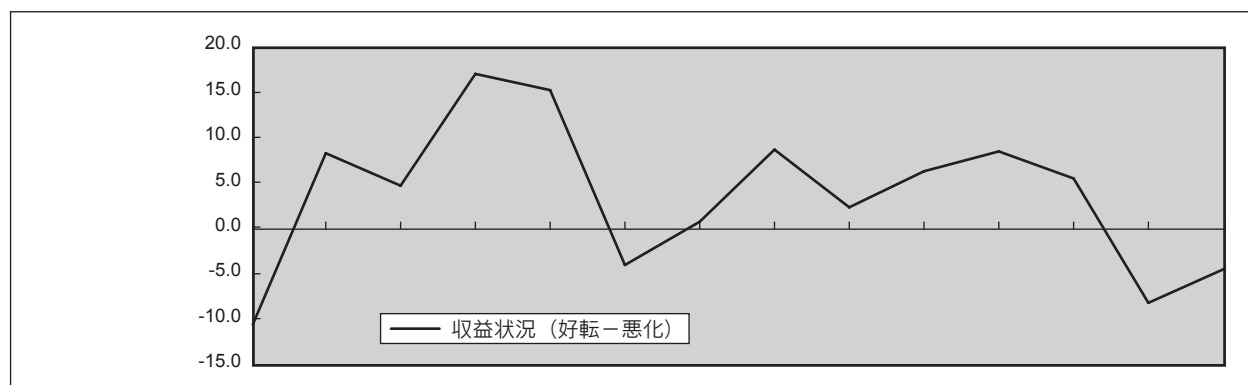
先行きについて、28年1～3月期は悪化見込みであるが、4～6月期には改善を予想している。

IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
好 転	15.8	25.2	19.3	28.5	29.9	14.6	20.8	23.8	23.2	23.2	22.8	22.7	10.9	13.6
横 ば い	57.9	57.9	66.1	60.1	55.3	66.8	59.2	61.0	55.9	59.9	62.7	60.1	70.1	68.5
悪 化	26.3	16.9	14.6	11.4	14.8	18.6	20.0	15.2	20.9	16.9	14.5	17.1	19.0	18.0
D . I .	-10.5	8.3	4.7	17.1	15.2	-4.0	0.8	8.7	2.3	6.3	8.4	5.6	-8.1	-4.4



好転理由

(%) 見込 予測

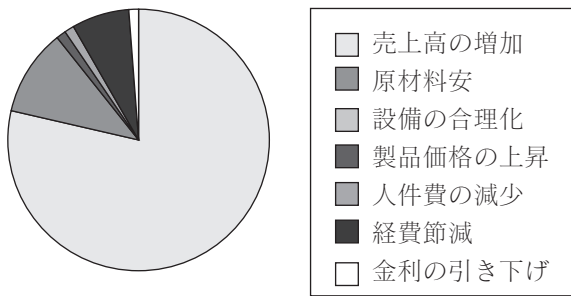
期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
売上高の増加	61.8	64.5	72.5	82.1	83.0	68.6	74.0	69.8	70.3	58.8	64.9	78.6	74.4	72.5
原 材 料 安	1.8	4.3	0.0	1.1	0.0	3.9	1.3	4.7	2.7	3.8	8.5	10.7	17.9	11.8
設備の合理化	1.8	3.2	4.3	3.2	2.3	5.9	3.9	5.8	6.8	7.5	2.1	0.0	0.0	5.9
製品価格の上昇	5.5	4.3	5.8	2.1	0.0	9.8	9.1	4.7	1.4	6.3	1.1	1.2	0.0	3.9
人件費の減少	7.3	4.3	4.3	4.2	2.3	2.0	2.6	4.7	4.1	3.8	6.4	1.2	0.0	0.0
経 費 節 減	18.2	18.3	13.0	7.4	11.4	5.9	9.1	9.3	10.8	17.5	16.0	7.1	5.1	5.9
金利の引き下げ	3.6	1.1	0.0	0.0	1.1	3.9	0.0	1.2	4.1	2.5	1.1	1.2	2.6	0.0

悪化理由

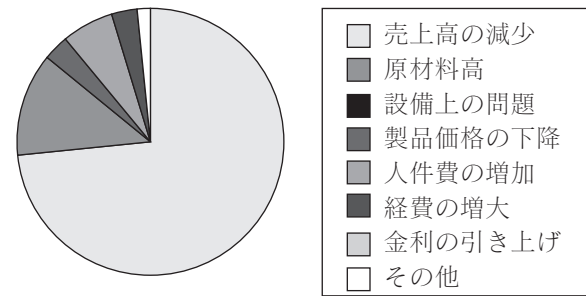
(%) 見込 予測

期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
売上高の減少	66.3	62.5	48.4	53.5	55.4	51.4	51.4	52.5	58.8	56.3	64.3	73.4	72.0	68.8
原 材 料 高	10.8	12.5	19.4	20.9	10.7	18.6	24.3	16.9	8.8	12.5	8.9	12.5	12.0	9.1
設備上の問題	1.2	0.0	6.5	0.0	0.0	1.4	1.4	3.4	4.4	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0
製品価格の下降	4.8	7.8	4.8	7.0	8.9	5.7	4.3	8.5	4.4	4.7	5.4	3.1	0.0	2.6
経 費 の 増 大	9.6	9.4	6.5	14.0	14.3	11.4	11.4	5.1	17.6	7.8	8.9	6.3	5.3	7.8
人件費の増加	2.4	3.1	8.1	0.0	3.6	8.6	4.3	6.8	0.0	0.0	1.8	3.1	1.3	3.9
金利の引き上げ	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そ の 他	4.8	3.1	4.8	4.7	7.1	2.9	2.9	5.1	4.4	14.1	10.7	1.6	9.3	7.8

好転理由



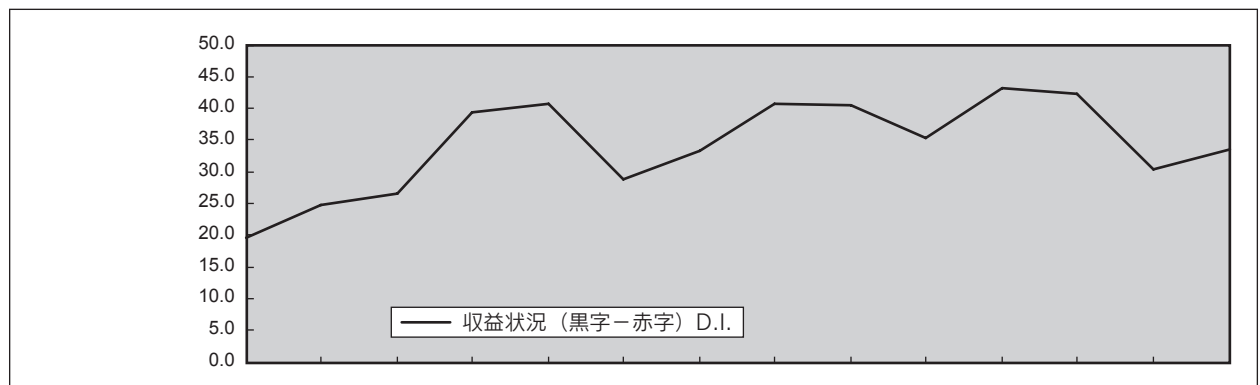
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は、前期比2.8ポイント悪化し、5.6となった。
 先行きについては、大幅悪化を予想しており、D.I.は▲8.1と13.7ポイント悪化となっている。4～6月期も▲4.4の予想となった。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「売上高の増加」が78.6%、次に「原材料安」10.7%「経費節減」7.1%の順であった。
 前回調査時より、「売上高の増加」「原材料安」を理由とするポイントが増加したが、「経費節減」「人件費の減少」とするポイントは減少となった。
- (3) 収益が悪化した理由では、「売上高の減少」73.4%、「原材料高」12.5%、「経費の増大」6.8%と前回調査時の同じ理由であった。
 「売上高の減少」「原材料高」とする理由は、前期より増加となった。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	期別														見込		予測
	25年				26年				27年				28年				
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月			
黒字	39.0	44.3	42.5	53.8	53.5	45.1	49.4	52.8	52.7	50.6	54.1	54.5	44.5	45.5			
収支トントン	41.7	36.3	41.8	31.8	33.7	38.6	34.5	35.1	35.2	34.2	35.1	33.2	41.4	42.6			
償却後赤字	19.3	19.4	15.8	14.4	12.8	16.3	16.1	12.1	12.1	15.2	10.8	12.2	14.1	11.9			
D.I.	19.7	24.9	26.7	39.4	40.7	28.9	33.3	40.8	40.6	35.3	43.3	42.3	30.4	33.5			



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は42.3となり、前期比1ポイント悪化となった。
 収益状況は、「黒字」との回答が半数以上であり、安定推移となっている。
 先行きのD.I.は、悪化する予想となっている。回答は、「収支トントン」との回答が増加する予想であり、「償却後赤字」との回答は減少予想となっている。

V. 製品在庫水準

製品在庫水準

(%) 見込 予測

期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不足	0.9	3.6	5.2	4.6	3.2	2.9	4.4	1.5	2.6	2.3	3.2	1.6	2.0	1.6
適正	91.5	88.8	91.3	89.9	90.3	91.3	89.2	91.3	89.7	91.1	88.9	92.5	93.3	93.3
過剰	7.5	7.6	3.6	5.5	6.5	5.8	6.4	7.3	7.7	6.5	7.9	5.9	4.7	5.1
D . I .	-6.6	-4.0	1.6	-0.9	-3.2	-2.9	-2.0	-5.8	-5.2	-4.2	-4.7	-4.3	-2.8	-3.6

製品在庫水準 (うち製造業のみ)

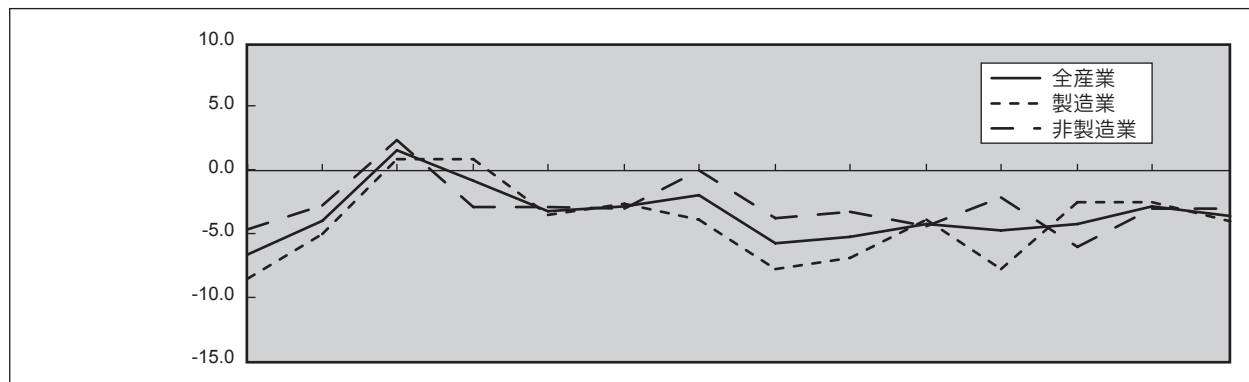
(%) 見込 予測

期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不足	1.9	5.1	6.3	5.2	3.5	4.5	5.0	2.0	3.9	3.9	4.3	2.5	1.6	0.8
適正	87.7	84.7	88.3	90.4	89.4	88.4	86.0	88.2	85.3	88.3	83.6	92.6	94.3	94.3
過剰	10.4	10.2	5.5	4.3	7.1	7.1	9.0	9.8	10.8	7.8	12.1	4.9	4.1	4.9
D . I .	-8.5	-5.1	0.8	0.9	-3.5	-2.7	-4.0	-7.8	-6.9	-3.9	-7.8	-2.5	-2.5	-4.1

製品在庫水準 (うち非製造業のみ)

(%) 見込 予測

期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
不足	0.0	1.9	4.0	3.9	2.9	1.0	3.9	1.0	1.1	0.9	2.2	0.8	2.3	2.3
適正	95.3	93.4	94.4	89.2	91.3	94.8	92.2	94.2	94.6	93.7	93.4	92.5	92.4	92.4
過剰	4.7	4.7	1.6	6.9	5.8	4.2	3.9	4.8	4.3	5.4	4.4	6.8	5.3	5.3
D . I .	-4.7	-2.8	2.4	-2.9	-2.9	-3.1	0.0	-3.8	-3.3	-4.5	-2.2	-6.0	-3.1	-3.1



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足－過剰」D.I.は、27年10～12月期は▲4.3となり、前期比0.4ポイント改善となるが、在庫は依然過剰との回答が高い回答となっている。
先行きについても、改善予想であるが、まだ、過剰予想となっている。
- (2) 業種別の製造業では「電子部品製造」「木工建具」が在庫過剰のポイントが多い。
非製造業では、「鋼材建材販売」「自動車販売」「卸売業」が在庫過剰と回答している。

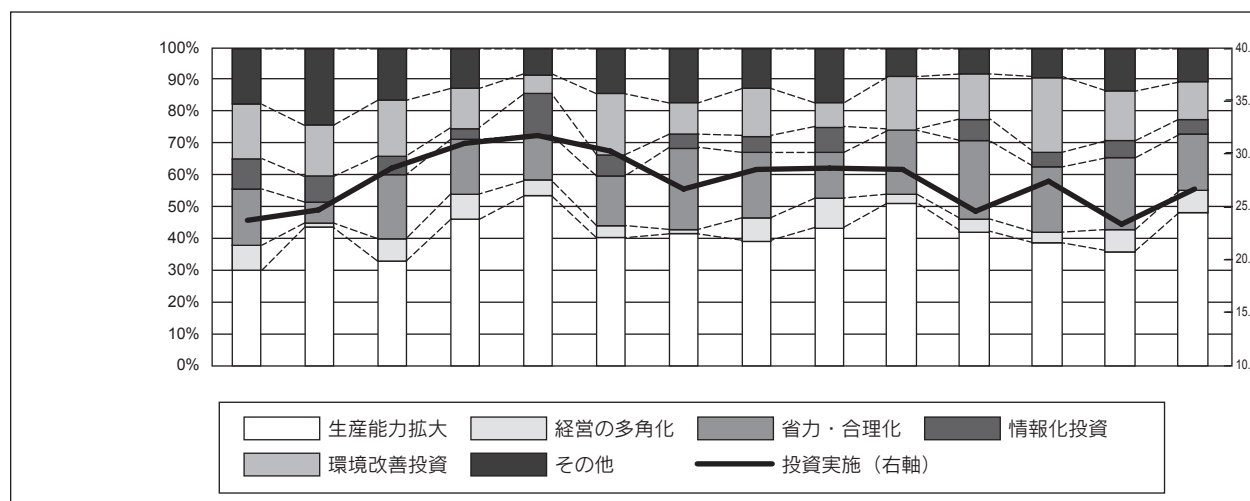
VI. 設備投資動向

設備投資の有無

期別 種別	(%)													
	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
投資実施	23.7	24.7	28.7	31.0	31.8	30.3	26.7	28.5	28.7	28.5	24.5	27.4	23.4	26.6
投資せず	76.3	75.3	71.3	69.0	68.2	69.7	73.3	71.5	71.3	71.5	75.5	72.6	76.6	73.4

設備投資の目的（実施先について）

	(%)													
生産能力拡大	30.2	39.1	32.9	46.0	53.6	40.3	41.4	39.2	43.4	51.3	42.1	38.6	36.0	48.2
経営の多角化	7.9	1.4	7.1	8.0	4.8	3.9	1.4	7.6	9.2	2.6	3.9	3.4	6.7	7.1
省力・合理化	17.5	5.9	20.0	17.2	14.3	15.6	25.7	20.3	14.5	20.5	25.0	20.5	22.7	17.6
情報化投資	9.5	7.2	5.9	3.4	13.1	6.5	4.3	5.1	7.9	0.0	6.6	4.5	5.3	4.7
環境改善投資	17.5	14.5	17.6	12.6	6.0	19.5	10.0	15.2	7.9	16.7	14.5	23.9	16.0	11.8
その他	17.5	21.7	16.5	12.6	8.3	14.3	17.1	12.7	17.1	9.0	7.9	9.1	13.3	10.6



- (1) 今回調査では、設備投資を実施した企業は全回答先の27.4%と、前回調査時より2.9ポイント増加した。先行きについては、1～3月は23.4%、4～6月は26.6%が設備を行うと予想している。

設備投資の目的別では、「生産能力拡大」、次に「環境改善投資」「省力合理化」の順に目的として上がっている。

- (2) 業種別で、設備投資をしたとするポイントの高いのは、製造業では「電子部品製造」「プラスチック」であった。

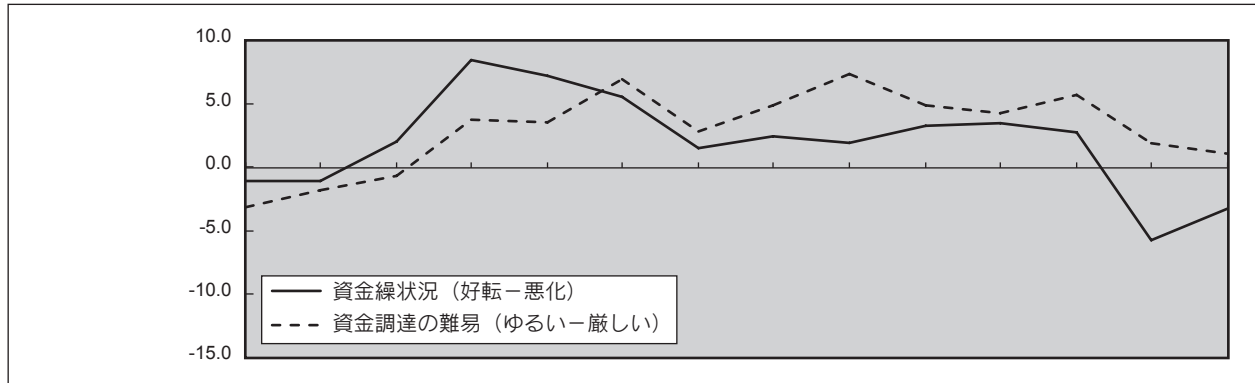
非製造業では、「宿泊業」「その他サービス」「運送業」が高いポイントであった。

VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
好 転	8.6	10.1	8.8	13.9	14.1	10.4	10.0	7.9	9.5	12.4	10.3	9.1	5.7	6.0
変 わ ら ず	81.6	78.8	84.4	80.8	79.1	84.9	81.6	86.6	83.0	78.5	82.9	84.6	83.0	84.9
悪 化	9.8	11.2	6.8	5.3	6.8	4.8	8.4	5.4	7.6	9.1	6.8	6.3	11.3	9.1
D . I .	-1.1	-1.1	2.0	8.5	7.2	5.6	1.5	2.5	1.9	3.3	3.5	2.8	-5.7	-3.2



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

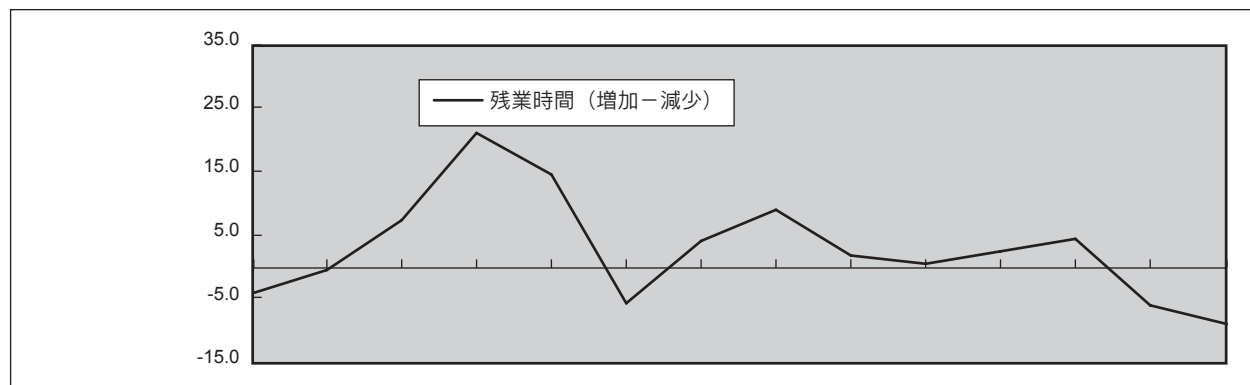
期別 種別	25 年				26 年				27 年				28年	
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月
ゆ る い	11.7	11.4	11.1	14.8	14.3	14.6	11.2	13.1	13.6	13.2	11.3	10.2	8.6	7.7
厳しくない	73.4	75.3	77.1	74.2	74.8	77.7	80.3	78.7	80.2	78.5	81.7	85.4	84.7	85.6
厳 しい	14.8	13.3	11.8	11.1	10.9	7.7	8.4	8.2	6.2	8.3	7.0	4.4	6.7	6.7
D . I .	-3.1	-1.8	-0.7	3.7	3.5	6.9	2.8	4.9	7.4	4.9	4.3	5.7	1.9	1.0

- (1) 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は2.1となり、前期比0.7ポイント悪化となった。先行きについても、D.I.はマイナスポイントとなり悪化を予想している。「好転」とする回答ポイントは、減少推移となっている。
- (2) 資金調達の難易D.I.は、5.7となり、前期比改善となっている。先行きについては、悪化予想であり、今期は安定していたが、今後の資金調達は厳しいと予想している。業種別では、製造業の「医薬品製造」「電子部品製造」が厳しいとのポイントが高く、非製造業では、「宿泊業」「百貨店スーパー小売」のポイントが高くなっている。

VIII. 労務事情

残業時間

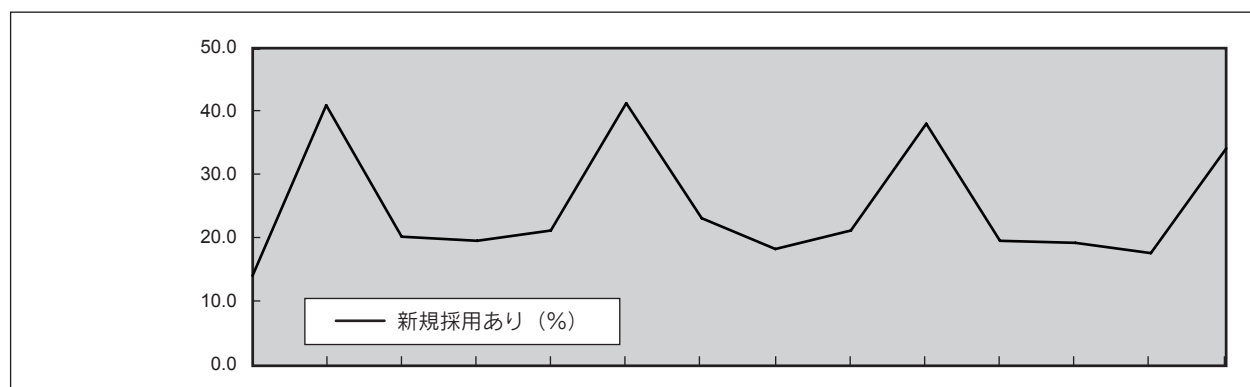
期別 種別	25 年												26 年				27 年				28年	
	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～								
	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月								
増加	12.0	13.3	15.4	26.3	23.6	8.8	13.1	17.5	13.9	11.5	13.7	13.9	8.4	5.3								
横ばい	71.8	73.0	76.6	68.6	67.5	76.8	78.1	74.1	73.9	77.5	75.0	76.7	77.4	80.7								
減少	16.2	13.7	8.1	5.1	8.9	14.5	8.9	8.4	12.2	11.1	11.3	9.4	14.3	14.0								
D.I.	-4.1	-0.4	7.3	21.2	14.6	-5.7	4.2	9.1	1.7	0.4	2.5	4.5	-5.9	-8.8								



- (1) 残業時間D.I.は27年10～12月期4.5となり、前期比2.0ポイント増加した。残業時間は、今回調査では、年末であるためか、前期比増加となっている。先行きについては、減少予想となっている。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

期別 種別	25 年												26 年				27 年				28年	
	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～	7～	10～	1～	4～								
	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月								
全産業	14.3	40.9	20.3	19.6	21.2	41.5	23.4	18.5	21.2	38.0	19.6	19.3	17.8	34.4								
(うち製造業)	13.6	40.2	20.0	18.1	23.8	45.5	25.9	23.7	20.7	40.9	22.8	22.5	22.5	36.2								
(うち非製造業)	14.9	41.4	20.5	20.9	19.0	37.9	21.6	14.8	21.6	36.0	17.6	17.2	14.3	33.2								

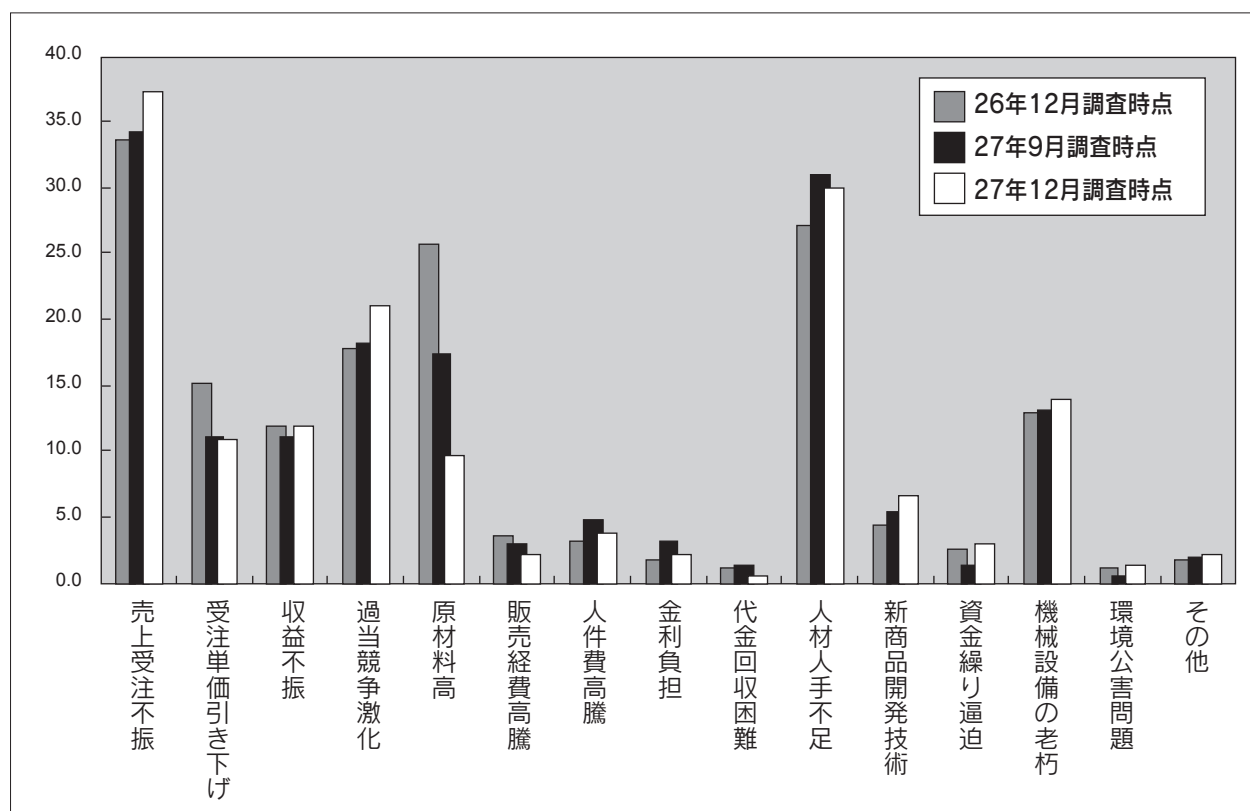


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。前年同期より、採用はやや増加した。製造業の採用比率が多かったが、非製造業では、前年同期比に比べ増加ポイントが多くなっている。

IX. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	26年12月 (前年同期)	27年9月 (前回)	27年12月 (今回)	27年12月		前回は増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	33.6	34.2	37.3	(37.1)	(37.4)	3.1
受注単価引き下げ	15.2	11.0	10.8	(15.3)	(7.9)	-0.2
収益不振	11.9	11.0	11.8	(14.5)	(10.0)	0.8
過当競争激化	17.7	18.1	21.0	(13.7)	(25.8)	2.9
原材料高	25.6	17.4	9.6	(10.5)	(8.9)	-7.8
販売経費高騰	3.6	2.9	2.2	(3.2)	(1.6)	-0.7
人件費高騰	3.2	4.8	3.8	(3.2)	(4.2)	-1.0
金利負担	1.8	3.2	2.2	(0.8)	(3.2)	-1.0
代金回収困難	1.1	1.3	0.6	(0.8)	(0.5)	-0.7
人材人手不足	27.1	31.0	29.9	(28.2)	(31.1)	-1.1
新商品開発技術	4.3	5.5	6.7	(12.1)	(3.2)	1.2
資金繰り逼迫	2.5	1.3	2.9	(1.6)	(3.7)	1.6
機械設備の老朽	13.0	13.2	14.0	(16.1)	(12.6)	0.8
環境公害問題	1.1	0.6	1.3	(3.2)	(0.0)	0.7
その他	1.8	1.9	2.2	(2.4)	(2.1)	0.3



- 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振37.3%（前期比+3.1ポイント）、②人材人手不足29.9%（前期比▲1.1ポイント）③過当競争激化21.0%（前期比2.9ポイント）の順になっている。
- 今回調査では、前期比最もポイントが高く変化したのは「原材料高」となった。「原材料高」を問題点とする企業が減少している。
- 問題点の「売上受注不振」が高い業種は、「高岡銅器」「繊維」となっている。「人材人手不足」は「医療福祉」「建築業」「木材業」であった。「過当競争激化」では、「鋼材建材販売」「機械工具販売」「窯業土石」となり、「収益不振」では、「電子部品製造」、「自動車販売」が高いポイントとなっている。

X. 北陸新幹線開通による事業への影響について

平成27年3月に北陸新幹線が開通した。この影響について、前年同期と比較して、売上高、売上高が上がった先に対する上昇比較の見込み、今後の予想について、アンケートを行った結果である。

項 目		見込 予測 (%)		
		27年10~12月	28年1~3月	28年4~6月
売 上 高	好 転	5.9	3.1	1.7
	悪 化	2.1	3.1	2.1
	影響なし	92.0	93.8	96.2
売 上 高 上 昇 率	10%未満	70.5	80.0	88.9
	10~20%以内	18.2	15.0	8.3
	20%以上	11.4	5.0	2.8

- (1) 売上高に影響があった企業は8.0%あり、売上が好転したとする企業が、悪化したとする企業より3.8ポイント多かった。

業績が好転した業種は宿泊業、飲食業にかかわる卸売、小売業が主であり、観光客による影響を表している。

一方で悪化した業種は、建設業が主であり、開業前の工事受注が開業によりなくなった影響があるものと推測される。

先行きについては、4~6月では、悪化する企業が多い予想となっている。

宿泊業、飲食にかかわる卸売、小売の中でも先行きの見通しにはバラツキがみられる。

- (2) 売上高の上昇率は、今期は10%未満が70.5%であったが、先行きは上昇率は減少していく予想となっている。

20%以上増加したとする企業は、今回11.4%が4~6月では、2.8%と8.6ポイント減少する。

富山県内新幹線開業に伴う各種データ

観光地の入込数

(千人)

観光地名	2013年	2014年	2015年	増加数
アルペンルート	958	909	997	88
トロッコ列車	702	682	804	122
チューリップフェア	310	285	321	36

新幹線各駅の乗降者数 (2015年3月14日~16年3月13日)

利用者数 9,250千人 (糸魚川-上越妙高間) (前年の在来線特急比2.95倍) (千人)

観光地名	黒部	富山	高岡	富山3駅合計	金沢
駅別乗車人員	292	1,715	547	2,554	3,139

		富山県宿泊客数動向						
		宿泊施設、460軒、14,545室（2014年調査）						
		25年1月 ～12月	26年1月 ～12月	増減率	増減数	27年1月 ～12月	増減率	増減数
県全体	延べ(人)	3,821,370	3,489,160	91.3%	▲ 332,210	3,976,890	114.0%	487,730
	実人数(人)	2,945,630	2,818,530	95.7%	▲ 127,100	3,276,540	116.2%	458,010
	連泊率	1.30	1.24			1.21		
旅館 <small>和式の構造及び設備を 主とする宿泊施設</small>	延べ(人)	1,198,500	1,223,100	102.1%	24,600	1,230,070	100.6%	6,970
	実人数(人)	1,055,060	1,106,740	104.9%	51,680	1,085,180	98.1%	▲ 21,560
	連泊率	1.14	1.11			1.13		
リゾートホテル <small>ホテルのうち行楽地、 保養地に建てられた観 光客を対象とするもの</small>	延べ(人)	268,940	240,940	89.6%	▲ 28,000	318,480	132.2%	77,540
	実人数(人)	233,720	227,330	97.3%	▲ 6,390	301,380	132.6%	74,050
	連泊率	1.15	1.06			1.06		
ビジネスホテル <small>ホテルのうち主にビジ ネスマンを対象とする もの</small>	延べ(人)	1,712,360	1,503,250	87.8%	▲ 209,110	1,533,890	102.0%	30,640
	実人数(人)	1,198,500	1,087,450	90.7%	▲ 111,050	1,189,370	109.4%	101,920
	連泊率	1.43	1.38			1.29		
シティホテル <small>ホテルで上記以外の都 市部に立地するもの</small>	延べ(人)	344,820	292,130	84.7%	▲ 52,690	462,000	158.1%	169,870
	実人数(人)	273,900	236,720	86.4%	▲ 37,180	341,370	144.2%	104,650
	連泊率	1.26	1.23			1.35		
インバウンド (外国人観光客)	延べ(人)	136,290	142,070	104.2%	5,780	201,940	142.1%	59,870
	実人数(人)	115,320	116,210	100.8%	890	163,040	140.3%	46,830
	連泊率	1.18	1.22			1.24		

		石川県宿泊客数動向						
		宿泊施設、804軒、24,958室（2013年調査）						
		25年1月 ～12月	26年1月 ～12月	増減率	増減数	27年1月 ～12月	増減率	増減数
県全体	延べ(人)	7,449,930	7,543,170	101.3%	93,240	8,518,360	112.9%	975,190
	実人数(人)	6,161,960	6,028,970	97.8%	▲ 132,990	6,902,170	114.5%	873,200
	連泊率	1.21	1.25			1.23		
旅館 <small>和式の構造及び設備を 主とする宿泊施設</small>	延べ(人)	2,757,680	2,811,290	101.9%	53,610	2,994,210	106.5%	182,920
	実人数(人)	2,464,050	2,481,120	100.7%	17,070	2,712,710	109.3%	231,590
	連泊率	1.12	1.13			1.10		
リゾートホテル <small>ホテルのうち行楽地、 保養地に建てられた観 光客を対象とするもの</small>	延べ(人)	442,490	532,280	120.3%	89,790	540,060	101.5%	7,780
	実人数(人)	383,130	428,420	111.8%	45,290	427,660	99.8%	▲ 760
	連泊率	1.15	1.24			1.26		
ビジネスホテル <small>ホテルのうち主にビジ ネスマンを対象とする もの</small>	延べ(人)	3,143,020	2,890,570	92.0%	▲ 252,450	3,101,840	107.3%	211,270
	実人数(人)	2,489,410	2,140,330	86.0%	▲ 349,080	2,316,090	108.2%	175,760
	連泊率	1.26	1.35			1.34		
シティホテル <small>ホテルで上記以外の都 市部に立地するもの</small>	延べ(人)	818,720	822,520	100.5%	3,800	1,185,670	144.2%	363,150
	実人数(人)	625,920	655,650	104.7%	29,730	963,600	147.0%	307,950
	連泊率	1.31	1.25			1.23		
インバウンド (外国人観光客)	延べ(人)	326,380	348,290	106.7%	21,910	513,350	147.4%	165,060
	実人数(人)	251,750	276,280	109.7%	24,530	387,140	140.1%	110,860
	連泊率	1.30	1.26			1.33		

出典：観光庁発表27年度宿泊旅行統計調査

調査概要 従業員10人以上の施設における全数

従業員0人～4人以下の施設における1/9のサンプル

従業員5人～9人以下の施設における1/3のサンプル

以上の施設における統計調査における推定値

(回収率はおおむね65%程度)

コメント

- ・ 富山・石川ともに宿泊客数は増加している
- ・ 業態ではシティホテル、ビジネスホテルの伸び率が高い
- ・ 富山県ではリゾートホテルの伸び率が高く、温泉地の景況感が伺われる
- ・ 富山県では旅館業の伸び率が低く地域別の入込格差が伺われる
- ・ 観光客の宿泊先の主流はシティホテルやビジネスホテルに変化していることが伺われる
- ・ 富山県内においては関東方面からの観光客は確実に増加しているが、関西方面からの列車の利便性が落ちており観光客はマイナスとなっている

総 評

I. 製造業

(織 維)

今回の調査では、売上高状況が前期比大幅に悪化となった。生産指数も前月比悪化となっており、経営上の問題点では「売上受注不振」が高いポイントとなっている。

(医 薬 品)

今回の調査では、売上高状況が前期比大幅に悪化となった。先行きについても悪化予想となっている。設備投資を行う企業は減少しており、資金調達においても「厳しい」との回答が多くなった。

(機 械 工 業)

売上高状況が前期比改善となっている。先行きについてはやや悪化予想であるが、資金調達の難易も「ゆるい」との回答が多く、資金繰りは安定していると思われる。

また、設備投資をした企業も、前期比やや増加となった。

(電 子 部 品)

今回調査では、業況判断指数と収益状況指数は前期比改善しており、売上高状況指数はやや悪化となった。売上高指数は先行きも悪化予想となっている。在庫は「過剰」との回答が多い。

(プ ラ ス チ ッ ク)

売上高状況指数は、やや改善し、先行きの4～6月では指数は横ばい予想となっている。

新設住宅着工数は前年比増加しているが、10月、12月は前年割れをしており、先行きの判断がしづらいとの声がある。

(ア ル ミ 製 品)

今回調査では、売上高状況は、大幅に悪化となった。26年末は消費税駆け込み需要があり、住宅着工戸数は増加していたため、その影響と思われる。先行きについては、改善予想となっている。

新設住宅着工戸数は前年比増加となっており、売上受注増加が期待される。

(木 材 業)

木材業についても、今回、売上高状況は前期比悪化となった。先行きの4～6月は改善を予想している。新設住宅着工戸数は前年比増加となっているが、木造住宅は前年比横ばいであり、木材の需要は増加にはなっていないように思われる。

(木 工 ・ 建 具)

今回調査では、売上高状況は、改善となった。しかし、先行きは悪化を予想している。

富山県内の住宅新設着工戸数は前年比増加しているが、先行きは不安な状況となっている。

II. 非製造業

(土 木)

東日本建設業保証(株)によると、今年度の公共事業体の発注は前年比29.7%減少している。

当行調査では、業況判断指数は前年度同じ推移であるが、売上高状況指数は悪化し、先行きについても悪化予想となっている。

(建 築 業)

今回調査の売上高状況は、前期比改善となった。先行きについても改善を予想している。業況判断指数も1～3月は悪化するが、4～6月には改善予想となっている。住宅着工戸数も前年比増加となっており、来年度の建築工事増加に期待したい。

(自動車販売)

富山県の27年10～12月の新車販売台数(軽自動車を除く)では前年同期比1.3%増加となった。

軽自動車は19.3%減少となっている。今回の調査では例年1～3月改善される売上高状況が、悪化予想となっている。今年度の販売台数が懸念される予想となった。

(運 送 業)

今回の調査でも、経営上の問題点として「人材人手不足」の回答が高くなっている。

内閣府の景気ウォッチャー調査でも、ドライバー不足で、トラックの確保が厳しいとの声があがっている。

(宿 泊 業)

売上高状況指数は、今回も前期比改善となった。先行きは大幅悪化予想となっている。富山県の北陸新幹線開業に伴う、宿泊客の増加は前年比14%となり、全国実績の6.7%をうわまわっている。

(百貨店・スーパー・小売)

27年10～12月期の売上高は前年同期比1.4%増加となっている。売上高状況は前年同期比「悪化」との回答が多く、指数はマイナスポイントの推移となっている。

業況判断指数は、改善予想であり、売上高改善も期待したい。

(医療福祉関連)

当行調査の売上高状況、業況は前期と変わらず安定している。

経営上の問題点では、「人材人手不足」と「人件費高騰」となり、問題解消できず依然高いポイントとなっている。